

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(留学生支援事業)

部局名: 学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
1. 各種保険事業	3,000千円	2,353千円	民間宿舎に入居する留学生に対する留学生住宅総合補償加入の補助及び留学生用宿舎の個人・借家人賠償責任保険加入の補助
返戻金	35千円		留学生の卒業・修了に伴う保険解約による留学生住宅総合補償返戻金
2. 交流補助事業		250千円	大学主催の行事にかかる参加料・材料費等の補助
3. 地域交流補助事業		0	地域交流団体への活動費の補助
4. 広報活動補助事業		0	留学生関連の広報
5. 予備費		0	
合 計	3,035千円	2,603千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

1. 各種保険加入事業では、民間宿舎に入居希望の延べ約440人への保険加入補助を行うことで、大学が機関保証となり入居することができた。また、留学生用宿舎入居者の賠償責任及び火災保険加入補助を行うことで、入居者約200人が安心して生活することができた。
2. 留学生の卒業・終了に伴う保険解約により返戻金の発生あり。
3. 交流補助事業は国際学生交流会、雲仙・島原バス旅行及びJapanese caféが実施された。
4. 地域交流補助事業、5. 広報活動補助事業及び6. 予備費の支出はなかった。

支出の部 合計	2,603,244
---------	-----------

(1) 各種保険加入支援事業 (①+②) 2,353,080

日付	事項	相手先	支出
4月6日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	86,000
4月7日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	8,000
4月13日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	8,000
4月21日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
5月8日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	182,000
5月19日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	8,000
5月31日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
6月15日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	162,000
6月22日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
8月2日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	16,000
8月23日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	178,000
8月29日	留学生住宅総合補償費(CER)	(財)日本国際教育支援協会	12,000
9月5日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	288,000
9月15日	留学生住宅総合補償費(	(財)日本国際教育支援協会	32,000
9月20日	留学生住宅総合補償費(TE	(財)日本国際教育支援協会	8,000
9月22日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	20,000
9月28日	留学生住宅総合補償費(N	(財)日本国際教育支援協会	60,000
10月2日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	184,000
10月10日	留学生住宅総合補償費(S	(財)日本国際教育支援協会	24,000
10月18日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	74,000
10月20日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
11月2日	留学生住宅総合補償費(I	(財)日本国際教育支援協会	4,000
11月8日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	14,000
12月5日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
12月13日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
12月27日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	8,000
1月12日	留学生住宅総合補償費(SI	(財)日本国際教育支援協会	8,000
1月22日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	108,000
1月29日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	4,000
2月8日	留学生住宅総合補償費(AKA	(財)日本国際教育支援協会	4,000
3月1日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	24,000
3月6日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	12,000
3月13日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	20,000
3月18日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	210,000
3月22日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	44,000
3月27日	留学生住宅総合補償費(RA	(財)日本国際教育支援協会	12,000
3月29日	留学生住宅総合補償費	(財)日本国際教育支援協会	8,000
①日本国際教育支援協会留学生住宅総合補償加入負担金			1,854,000
2月27日	個人・借家人賠償責任保険(西町AB棟21部屋、ホルテンシア34部屋/個人194名)	(株)ライフプラザパートナーズ	499,080
②学生賠償責任保険加入支援金			499,080

(2) 交流補助事業 250,164

日付	事項	相手先	支出
4月7日	国際学生交流会開催費	長崎大学生生活協同組合	100,000
5月20日	雲仙・島原バス旅行旅行代(一部) 29人×530円	長崎遊覧バス株式会社	15,370
6月5日	楽描きガラス風鈴 50個(Japanese Table用)	三菱UFJニコス株式会社	16,577
7月6日	風鈴絵付け体験会用の備品	宮脇 恵美	3,650
9月26日	国際学生交流会開催費	長崎大学生生活協同組合	94,000
10月6日	Japanese caféお茶会用消耗品	大学生協	6,099
10月10日	Japanese caféお茶会用消耗品	大学生協	1,390
10月10日	Japanese caféお茶会用消耗品	大学生協	838
12月20日	JapaneseTableしめ縄作り材料	宮脇 恵美	10,585
12月26日	JapaneseTableしめ縄作り材料	徳重 秋利	1,655
③本学主催の交流事業			250,164
④地域交流事業			0

収入の部 合計	35,260
---------	--------

(1) 返戻金（留学生住宅総合補償）

35,260

日付	事項	相手先	支出
12月22日	留学生住宅総合補償返戻金(本年度返戻金)	(財)日本国際教育支援協会	14,530
2月1日	留学生住宅総合補償返戻金(過年度返戻金)	(財)日本国際教育支援協会	20,730

(2) 執行額振替

0

日付	事項	相手先	支出

(2) その他

0

日付	事項	相手先	支出

(3) 広報活動補助事業

0

目付	事項	相手先	支出

(4) 予備費

0

目付	事項	相手先	支出

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(「葉國璽」私費外国人留学生奨学金)

部局名: 学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	9,000千円	7,500千円	(12人×12月+1人×6月)×1人50千円 =7,500千円
合 計	9,000千円		

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

13名の留学生(大学院生11名、学部2名)に経済支援を行った。

令和5年度「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金受給者一覧

[illegible]

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(田添グローバル交流推進基金奨学金)

部局名: 学生支援部留学支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
	1,500千円	410千円	5人×1人70千円+1人×1人60千円 =410千円
合 計	1,500千円	410千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

6名の学生(大学院生2名、学部4名)に留学支援を行った。

令和5年度長崎大学田添グローバル交流推進基金奨学金

【支給者】

番号	支給時期	部局名	学生番号	学生氏名	学年	プログラム名	実施責任者	派遣先		派遣期間	地区別単価	地域区分
								国名	機関名			
1	第1回	多文化社会学部			2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	カンボジア	日本語学校(CJIC)	2023.8.14 ～ 2023.8.27	70,000	乙
2	第1回	熱帯医学・グローバルヘルス研究科修士			2	グローバルヘルス演習Ⅰ	有吉 紅也	フィリピン	東ビサヤ医療センター	2023.6.24 ～ 2023.7.21	70,000	乙
3	第1回	多文化社会学部			2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	カンボジア	日本語学校(CJIC)	2023.8.19 ～ 2023.9.1	70,000	乙
4	第2回	多文化社会学部			2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	カンボジア	日本語学校(CJIC)	2024.3.11 ～ 2024.3.22	70,000	乙
5	第2回	熱帯医学・グローバルヘルス研究科修士			2	グローバルヘルス演習Ⅰ	有吉 紅也	ネパール	Siddhi Memorial Hospital	2023.11.13 ～ 2023.12.9	60,000	丙
6	第2回	多文化社会学部			2	多文化社会学部自主企画インターンシップ	白井 章詞	カンボジア	日本語学校(CJIC)	2024.3.4 ～ 2024.3.13	70,000	乙

410,000

指定都市

甲

乙

丙

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(福德グループ一般奨学金)

部局名: 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
福德グループ一般 奨学金支給	720千円	450千円	1.奨学生1名×12月×30千円＝360千円 2.奨学生1名×3月×30千円＝90千円(※) ※ 休学による停止期間あり
合 計	720千円	450千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 本奨学金は福德グループ代表取締役会長である福島誠氏からの「長崎大学西遊基金」へのご寄附を に設立されたものである。 令和5年度は令和3年度に採用された奨学生2名に対し、引き続き毎月30千円を支給した。
--

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(福德グループチャレンジ奨学金)

部局名: 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
福德グループチャ レンジ奨学金支給	1,500千円	900千円	1.奨学生1名 × 300千円 = 300千円 2.奨学生1名 × 600千円 = 600千円
合 計	1,500千円	900千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 本奨学金は福德グループ代表取締役会長である福島誠氏からの「長崎大学西遊基金」へのご寄附を に設立されたものである。 令和5年度は、令和3年度に採用された奨学生1名に対し、追加の支援金として300千円を支給した。 また、新規の募集により2名からの応募があり、選考の結果1名が採用となった。

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(物価高に対する学生支援事業)

部局名: 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

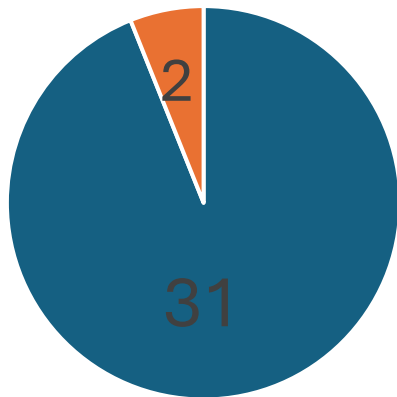
項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
生協電子マネーの チャージ	3,000千円	3,000千円	支援総額は学生336名×12千円＝4,032千円、うち1,000千円はJASSOによる支援金、32千円は学生支援課予算にて負担
合 計	3,000千円	3,000千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 物価高による影響で厳しい生活を余儀なくされている学生(住民税非課税かつ自宅外の日本人学部生、本学独自授業料免除結果が半額免除の学部留学生)に、修学費等の支援を行うため生協で利用できる電子マネーのチャージを行った。 なお、日本学生支援機構から「物価高に対する経済対策支援金」として1,000千円の交付があった。
--

修学支援制度 アンケート

1.本事業は修学費の支援として役立ちましたか？（まだ未使用の場合、今後役立つかどうかでお答えください。）



■ 大変役に立った。

■ ある程度役に立った。

2.本事業（長崎大学生協で利用できる電子マネーのチャージ）について、皆さんのご感想をお聞かせください。（自由回答）

- ・ 沢山の方々の支えのおかげでお金の心配なく勉強が続けられていること、感謝してもしきれません。将来は自分が多くの人の役に立てるよう頑張ります。
- ・ 物価も、学食の価格も少しずつ上昇していくが、それに対応して賃金が増えることはなく(9月まで)非常に節約した生活を行っていた。節約で一番に削られるのは、食事なので、非常に助かった。

3.今後希望する支援内容、物価高により困っていること等、皆さんのご意見をお聞かせください。（自由回答）

- ・ 物価高でも奨学金やアルバイトの時給はほぼ変わらないので、今後も今回のように支援してもらえると助かります。
- ・ 食品や光熱費等物価高が続きすぎて、我慢することが多くなった。
- ・ 自炊しても食費が下がらなくなった。
- ・ 去年も同様のご支援をいただき、大変高額な参考書（クエスチョンバンク等）を購入することができました。誠にありがとうございます。

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(学生団体の活動に対する補助)

部局名:学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位:千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
予算配分 放送研究会 アメリカンフットボール部 マッスル部支援	2,000千円	30千円 598千円 1,372千円	ICレコーダー ヘルメット トレーニング機器
合 計	2,000千円	2,000千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

本事業により、学生団体自身の予算では購入が難しい物品の購入を行うことができた。
これにより、課外活動の充実、ひいては大学生活への満足度の向上が見込まれる。
今年度より、学生の自己負担を必須(最低一割)としたことから、真に必要な物品の申請が行われているものとする。

活動報告書

長崎大学放送研究会

このたびは、長崎大学放送研究会に貴重なご支援をいただき、部員一同心より感謝しております。誠にありがとうございました。今回のご支援で、当部は、温冷風機とカメラ、ボイスレコーダー、USB ポートを購入していただきました。当部では、普段より撮影や録音に関する様々な活動を行っております。その中でも特に力を入れて取り組んでいるのが、映像です。今回購入していただいた 物品は、映像制作活動をより充実したものにするために使わせていただこうと考えております。カメラやボイスレコーダーに関しましては今までの物品が古いものしかなく新しく性能のいいものを購入していただきました。部員一同心を込めて使わせていただこうという所存です。

また温冷風機につきましては部室内の環境が大きく変わることが希望されます。本当にありがとうございました。

当部は、今後楽しみながら活動すること、そしてその楽しさを多くの方に伝えることを目標として活動していきます。今回ご支援いただいたカメラやボイスレコーダーを使用した映像作品が多くの方々の目に留まり、当部の活動を知ってくださる方が少しでも増えるよう、部員一同これからも日々精進してまいります。この度は誠にありがとうございました







活動報告書

長崎大学 アメリカンフットボール部

この度は長崎大学アメリカンフットボール部に貴重なご支援を頂き、誠にありがとうございます。今回のご支援のおかげで貸出用ヘルメットを10個、購入していただくことができました。

アメリカンフットボールはヘルメットや肩パッドなどの防具を装着したプレイヤーが、敵陣のゴールにボールを運ぶ攻撃と、それを阻止する守備を繰り返し、最終的な得点を競う競技です。アメリカンフットボールをプレーするにあたってヘルメットは欠かせない装具ですが、脳震盪対策への関心の高まりによる高性能化や、昨今の円安ドル高の影響でアメリカンフットボール用のヘルメットは数年前と比べると日本の販売店での価格が値上がりしています。具体的には5年前に4万円で購入できたものがここ数年6万円程度にまで値上がりしています。試合に出場するためにはヘルメットのほかに肩パッドやスパイク、ユニフォーム等も準備する必要があり、一式揃えると一人当たり15万円以上の金額になります。アメリカンフットボールをプレーするうえで必要な出費とはいえ、新入生にとっては大きな障壁であり、実際に新入生勧誘の場面でも金銭面を心配する声が多くありました。

今回購入させていただいた貸出用のヘルメットは部員の経済的負担を軽減し、延いては部の戦力アップを実現できると考えております。部員一同この度いただいたご支援への感謝の気持ちを忘れず、定期的なメンテナンスを徹底し、大切に使用していく所存です。

当部は2022年に約20年ぶりに九州学生リーグへの復帰を果たし、復帰後3シーズン目となる来シーズンは「二部優勝」を目標に、競技力の向上と人間的成長を追求して活動して参ります。この度のご支援に結果で恩返しするべく、部員一同日々精進してまいります。

この度は誠にありがとうございました。





活動報告書

長崎大学 マッスル部

このたびは、長崎大学マッスル部に貴重なご支援をいただき、部員一同心より感謝しております。誠にありがとうございました。今回のご支援で、当部は、ラバーフロアマットとパワーラックとデュアルアジャスタブルプーリー、荷物棚を購入していただきました。

長崎大学マッスル部は2023年に国体へとつながる第15回長崎県パワーリフティング大会を長崎県パワーリフティング連盟と共同主催しました。トレーニング需要が高まっている中、意欲的に活動している部員もとても多く在籍しています。また、長崎国際テレビからインタビューを受けるなどメディアなどへの広報活動も進めています。まだまだ活動内容で目立ったものは多くありませんが在籍部員数と活動意欲だけは長崎大学で一番だと思っています。

今回購入していただいた物品は長年老朽化していた機材を今後長く使える耐久性の高いものに買い替えました。筋力トレーニングをする上で安全性が第一となります。日常生活では扱わないような重さを使ってトレーニングをするので、安全性が確保できない機材を使うと怪我をするリスクが高まってしまいます。部員が伸び伸び活動できる環境づくりのために今回購入していただきました。

当部は、今後もトレーニングを楽しみながら活動し、そしてその楽しさを多くの方に伝えることを目標として活動していきます。今回支援していただいた機材を使用して様々な大会に挑戦し、トレーニング文化を広め、部員一同これからも日々精進してまいります。

この度は誠にありがとうございました。



令和5年度 西遊基金事業実績報告書(長崎県美術館キャンパスパートナーズ制度への加入)

部局名: 学生支援部学生支援課

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
加入費	175千円	175千円	長崎県美術館キャンパスパートナーズ加入費(半年分)
合 計	175千円	175千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】 令和5年度後期より当該制度に加入し、学生の美術館の利用を推進した。 長崎県美術館によれば、キャンパスパートナーズ制度による常設展入場者を比較すると、R4: 83人 → R5: 230人と増加しているとのことであったが、大学ごとの利用者の切り分けを行っておらず、本学の利用者数自体は不明であった。 今後、大学ごとの利用者数を確認できる体制としていただけるよう依頼している。
--

令和5年度 西遊基金事業実績報告書(学生のプラネタリーヘルス研究・理解促進のための支援事業)

部局名: プラネタリーヘルス推進本部

1. 支出実績額内訳

(単位: 千円)

項 目	令和5年度 配 分 額	令和5年度 支出実績額	内容(簡潔に記入すること)
①プラネタリーヘルスレポートカード ・学会発表 ・事業支援経費	700千円 (100千円) (600千円)	0円 11千円	医学部が中心となって活動しているプラネタリーヘルスレポートカードの実施継続及び他部局及び国内大学への横展開プロジェクト支援
②海ゴミ問題解決にかかる活動支援	700千円	318千円	海ゴミ問題が重篤な状況にある対馬において、株式会社ヤマップと本学学生が共同でスタディーツアーを実施するための学生の交通費や調査等の支援
③キャンパスサステナビリティ支援事業	600千円	0円	学生による新たなプラネタリーヘルス活動の創出・支援
合 計	2,000千円	329千円	

2. 事業経費の使用結果に関する報告

【事業の成果, 問題点, その他特筆すべき事項】

①プラネタリーヘルスレポートカード※について【別紙資料1、資料2参照】

「第55回日本医学教育学会大会」へ参加をするために支援をする予定であったが、令和5年度は出島メッセ長崎で開催されたことから、参加費も含めて支援経費が不要となった。当該学会では、本学サークル「ししのごプロジェクト」の学生が2023年版Planetary Health Report Card (PHRC)の結果に係るポスター発表を行い、積極的な質疑応答が実施され、想定よりも多くの参加者がプラネタリーヘルスについて関心を持っていることが分かった。また、医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)に新たに追加された項目の中でPHRCに関する項目があり、国内でもプラネタリーヘルスが波及しつつあると言える。

加えて、令和4年度はプラネタリーヘルスレポートカードについて、他大学との交流を実施したため、令和5年度も同様に交流に係る費用を計上したところであるが、交流自体が実施されなかった。

上記、2点に係る支援計画については、今後ししのごプロジェクトのメンバーと調整を図っていきたい。

なお、上記活動を実施する上で、コワーキングスペースを利用していることから、その利用料等を支援し、上述した学会発表の資料作成、他学部への横展開等に活用された。

※Planetary Health Report Card (PHRC)・・・大学内におけるプラネタリーヘルスの取組を学生が調査・評価するものであり、欧米諸国の医学部学生が中心に取り組んでいるが、令和3年に国内で長崎大学が初めて報告書を提出した。

②海ゴミ問題解決にかかる活動支援について【別紙資料3参照】

令和5年11月18日～19日に対馬にて株式会社ヤマップ及び本学学生が共同で実施したスタディーツアーに係る学生の旅費等を支援した。本活動は、遠征前及び遠征後でそれぞれ研修を行い、対馬の住民の方々や企業と交流し、対馬で問題となっている海ゴミ問題を実際に見学した。実際に見ることで、今後の環境保全や学生生活に活かしていくためのアイデアにつながった。

③キャンパスサステナビリティ支援事業について

学生による新たなプラネタリーヘルス活動の創出及び支援を目的としていたが、令和5年度は実施しなかった。

報 告 書

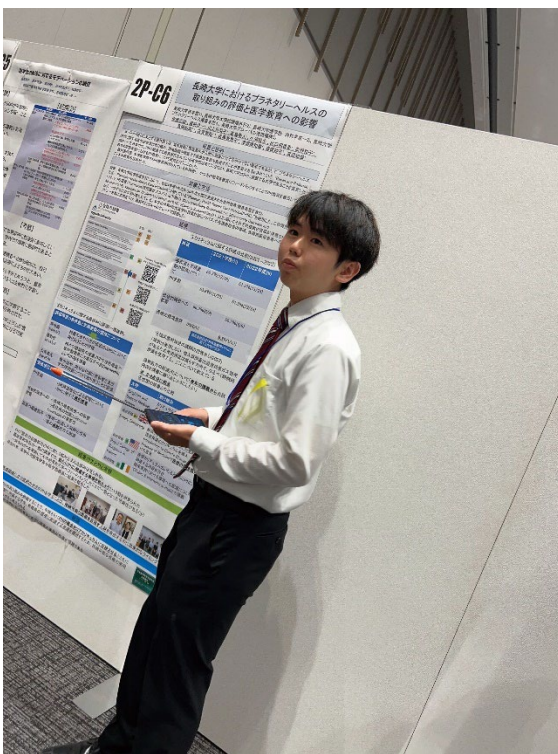
報告日：令和5年8月10日

件 名	第 55 回日本医学教育学会大会
実 施 日	令和5年7月28日（金）～令和5年7月29日（土）
場 所	出島メッセ長崎
参 加 者	長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」 小浦稜生（医学部4年） 佐瀬光雄（医学部3年） 川上日菜子（医学部3年） 尾前公一（医学部3年）
目 的	「プラネタリーヘルス」という日本ではあまり馴染みのない概念について関心を持ってもらい、長崎大学医学部生が自大学を調査・評価している「プラネタリーヘルスレポートカード（PHRC）」について発表を行うことで長崎大学のプラネタリーヘルスに関する活動をより多くの方に知ってもらう。また、発表を行うことでプラネタリーヘルスやプラネタリーヘルスレポートカードが国内に普及することを目的としている。
概 要	プラネタリーヘルスレポートカードとは、大学内におけるプラネタリーヘルスの取り組みを学生が調査・評価するというものであり、欧米諸国の医学部生が中心に活動していたが、2021年に国内で初めて長崎大学が初めて報告書を提出した。また、毎年1回、日本医学教育学会が開催されており、2023年は出島メッセ長崎にて開催され、長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」に所属する佐瀬光雄がPHRC2023の結果とそれを踏まえた考察についてポスター発表を行った。全体の結果を提示した後、カリキュラムの分野に関して具体的な評価理由や、PHRC2022の結果との比較について説明した。そして、昨年外科治療学の授業の中でプラネタリーヘルスに関する内容を扱ったことを挙げ、講師からの回答も紹介した。最後に、本活動がプラネタリーヘルス推進や持続可能な医療の実現に有用であるとして、活動を継続していくと話した。
今後の展望	今回、初めてのポスター発表ということもあり非常に緊張したが、我々の活動の成果を参加者に伝えることができ、安堵している。想定していたよりも参加者が、プラネタリーヘルスのような医療と環境(社会)の関係について関心を持っており、我々の活動を評価してくれたことは大きな成果だったと感じている。今回の学会発表に関しても教員に報告し、より一層活動を推し進めていきたいと思う。また、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に、「気候変動と医療との関係性を理解し、患者が抱える健康に関する課題と気候変動との関係を想像できる」「自然災害(新興感染症を含む)が起きた際に必要とされる医師の役割を理解している」が盛り込まれたことに関する質問もあり、改めて本活動の意義を確認することができた。今回の発表が、学会で多くの先生方に評価していただいたことを学内外に伝えていくことで、プラネタリーヘルスやプラネタリーヘルスレポートカードを国内に普及するきっかけになればと考えている。

第55回日本医学教育学会大会 in 長崎



写真添付



報 告 書

報告日：令和 6 年 3 月 1 日

件 名	令和5年 プラネタリーヘルス推進活動に関する会議
実 施 日	令和5年 4 月 1 日（土）～令和 6 年 3 月 31 日（日）
場 所	Matsuyama Meeting Point（長崎市松山町 4-40 松山ビル 4 階）
参 加 者	長崎大学サークル「ししのこプロジェクト」部員一同
目 的	本学が本邦で先駆けて推進しているプラネタリーヘルスに関して、学生主体の活動をどのように実現するかについて話し合っている。 また、他の社会貢献活動を行う部員と意見交換することで、現状の活動の見直しや改善を行っている。
概 要	ししのこプロジェクトは、プラネタリーヘルスレポートカードの作成など、プラネタリーヘルスの推進を本学の中でも特に積極的に行なってきた。本年、医学部以外の部員が増えたことで、より多様な活動が可能になったことから、キャンパス内でのペットボトル回収など新たな取り組みを企画し実施してきた。 Matsuyama Meeting Point にて実施している会議では、具体的な回収方法やそれに向けた準備について主に話し合った。また、他のグループと合同で会議する中で、環境や肌にやさしい石鹸作りなど新しいアイディアも生まれ、非常に有意義な意見交換の場とすることができた。
今後の展望	ししのこプロジェクトは今後も本学のプラネタリーヘルス推進に一層貢献していく所存である。プラネタリーヘルスの啓蒙活動はもとより、プラネタリーヘルスに貢献する多様な取り組みを実現するため、話し合いを続けていく。 具体的には、環境にやさしい石鹸を用いたワークショップや教育活動の実現、また、学内のリサイクル活動への参加を中心として、学生主体で環境保護を進める活動を今後も継続していく。

写真添付



報 告 書

報告日：令和5年11月27日

件 名	令和5年 対馬プラネタリーヘルスプロジェクト
実 施 日	令和5年11月18日（土）～令和5年11月19日（日）
場 所	対馬市役所、城山、赤島、越高海岸等
参 加 者	津留崎 和義 准教授（経済学部） 清田 智子 准教授（グローバル連携機構） 吉良 優香（経済学部 4年） 高良 諒（経済学部 1年） 丸野 靖礼（情報データ科学部 1年） 古山 京子（多文化学部 2年） 小峯 ひかる（多文化学部 2年） 廣坂 樹（多文化学部 2年） 入江 祐樹（多文化学部 2年）
目 的	（株）YAMAP、対馬市との連携のもと、学生有志により環境教育スタディツアーの企画を立案するプロジェクトである。まず、遠征に先立ち事前研修として、対馬に対しての情報収集、ツアー企画手法の説明、コンセプト立案・アイディア発想等を学ぶことを目的としている。
概 要	固有の自然、文化、生態系を持つ魅力的な対馬では、シカやイノシシの増加による農林被害や山林荒棄、マダニ媒介によるヤマネコのSFTSウイルス感染、海岸線を埋め尽くすほどの海洋漂着ごみなど深刻な環境問題に直面している。 遠征1日目には、城山登山を行い、対馬の歴史、文化、地形等について知識をインプットし、引き続き、赤島にて海ごみの視察を行った。また、対馬市SDGs推進課の職員から海ごみの現状や対策について講話していただき、意見交換を行った。 遠征2日目には、日韓海岸清掃フェスタ、丸徳水産が提供する海体験ツアーにも参加し、ごみの分別回収や水産業の観光資源化について学び、最後に振り返りワークショップを行った。 （詳細なスケジュール） ● 11月18日（土） ➤ 長崎～対馬 ORC051 9:15～9:50 ✧ 対馬着後、レンタカーにて移動 ➤ 10:30～14:00 城山登山 ✧ YAMAP ガイドのもと、対馬の歴史や文化・地形、山や海との共生、生態系についての知識インプット ➤ 15:00～16:00 赤島にて漂着ごみ見学 ✧ 地形的にごみが漂着しやすく、また溜まりやすい赤島にて漂着ごみの見学 ✧ ごみが溜まりやすい（抜けにくい）エリアであり、すでにマイクロプラスチック化したごみが2m近くまで堆積

	➤ 17:00~19:00 対馬市 SDGs 推進課の前田氏による講話・意見交換 ◇ 漂着ごみの現状とそれに向けた対策 ➤ 東横イン厳原にて宿泊 ● 11月19日(日) ➤ 9:30~12:00 日韓海岸清掃フェスタに参加 ◇ 越高海岸にて、魚網、廃プラ、ペットボトル、人工木流木を分別回収 ◇ 地元メディアが学生たちに取材 ➤ 13:00~14:00 肴や えんにて昼食(各人負担) ◇ 磯焼けを引き起こすイスズミやアイゴの料理 ➤ 14:30~16:30 丸徳水産スタディツアー(海遊記ツアー)に参加 ◇ 水産業の観光資源化 ➤ 17:20~18:30 ◇ 振り返りワークショップ ➤ 対馬~長崎 ORC062 20:00~20:40
今後の展望	・映像等では見たことのあった海洋漂着ごみを実際に見たときは衝撃を受けた。 ・今回の経験を周りの人にも共有し、今後の環境保全への取り組みに活かしていきたい。

写真添付

